



導入編

第1章 さっぽろの道路^{みち}づかい 今・昔・未来

- ・伝統的な道路活用と道路の現状 4
- ・こうなったらいいなあ 都心の道路 6
- ・なぜ道路空間？さまざまな人のおもい 8

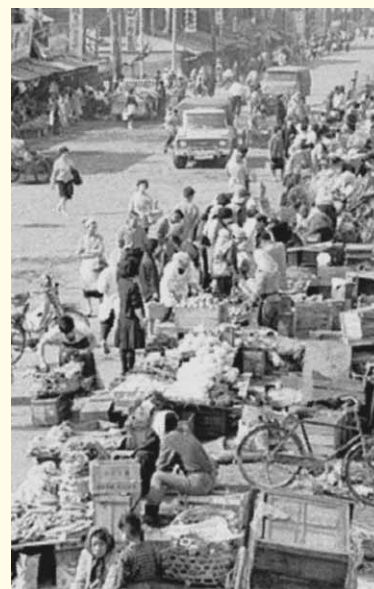


かつて、
道路は私たちの生活の場であった。



かつて、
道路はもっと身近であった。





しかし、いま、
道路は ^{みち}
.....

かつて、
道路は ^{みち}
みんなで大切にしていた。

日本の伝統的な道路活用

日本の伝統的な道路とのつき合い方に「うち水」があります。ほこりをしずめたり、涼をとるために家主は家の前の道路に水をまきました。そして、ふだんから掃除をし、鉢植えて道路を飾り、ときには七夕飾りをしました。沿道の住民は自ら楽しみ、そして道行く人の目も楽しませていました。

日本では、道路を使う住民がふだんから道路を大事にし、いわゆる道路の身だしなみ、身づくろいをしていたのです。



写真：札幌市写真ライブラリー

かつての札幌も・・・

私たちのまち、札幌でもかつて道路はもっと身近で、生活の場として欠かせない空間でした。

お祭りや市、路上での運動会、冬の除雪など道路には活気があふれ、にぎわい、語らいの場として道路を大切に使っていました。

都市化の波ととも

しかし、都市化が進み、車や人が増えるにつれ、道路はしだいに私たちの生活から遠い存在となりました。

特に都心部の歩道には乱雑に停められた自転車や広告看板などがあふれ、車道は違法な路上駐車でふさがってしまいました。かつて道路でくつろぎ、集い、そして雪割りや掃除を行っていた風景はほとんど見られなくなっていました。

もっと道路を身近に

今、札幌の都心の道路はさまざまな課題を抱えています。ふだんの道路の身だしなみを整えることで解決できるものもたくさんあります。

自転車の整理や道路の清掃など、ふだんからみんなで気配りすることでまちが元気になり、まち並みの質も向上するでしょう。そして、それは歩いて楽しめる都心の実現につながります。

道路を上手に活用することで、私たちの暮らしはより豊かになっていくのです。

